

春一番のたよりが聞かれるようになってきました。日本の気象で使われる「春一番」という言葉は「2月4日頃の立春から3月21日頃の春分の間が発生する南寄りの強い風」のことです。

由来は諸説ありますが、長崎県壱岐郡郷ノ浦町(現・壱岐市)において1859年3月17日に発生した強風による海難事故がきっかけとのこと。壱岐地方では、昔から、この時期の強風のことを「春一」などと表現していたのが、この大事故によって「春一番」という名称でひろまったと言われます。ですが、春一番と聞くと「穏やかな風」というイメージを思い浮かべる人も多いようです。これは、キャンディーズの大ヒット曲のイメージのためと推測されています。「雪が解けて川になって流れて行きます♪」で始まる名曲「春一番」のほのぼのとした季節描写だけでなく、これまた名曲の「微笑み返し」の冒頭、「春一番が掃除したてのサッシの窓にほこりの渦を踊らせてます♪」という歌詞によって、穏やかな風というイメージが圧倒的にひろまってしまい、海難事故を起こすような突風とか強風という認識が薄れてしまったのでしょうか。



でも、気象現象としての「春一番」は、あくまでも「急発達する低気圧」を表現する言葉ですので、この言葉を聞いたら、強風・突風に注意して、防災の備えを確認してみてください。

今週のエッセイ  
ほかの復帰はあったものの、  
手本調子ではないおもちゃ、  
お休みされていってさびしい空間  
あります。  
ほのぼのほのぼのと春がはかっています。

おもいやり  
3月のおもいやりは何かしよう？  
と、いろいろ提案があり、相談  
をいじりこまれました。  
雑誌でみたハンバーガーの  
写真を白賢に、ハンバーガー食の  
写真野トシガ行つたといひなりました。

いぶきグループ  
いぶき余り ひたふりに  
たのみのつよお全復集おて  
行えまいた。くれおたてい

つくりせ  
今週と来週にわたって、実習生が  
きています。物の場所や作業の方法  
等々、皆、やさしく、時には、仕事を  
行かせと行なっている姿をみせてい  
ています。